

主 文
本件上告は之を棄却する。

理由
本件上告の趣旨は末尾添附の被告人辯護人市毛哲夫同海野普吉名義の上告趣意書と題する書面に記載せる通りである。之に對して當裁判所は次の様に判断する。
〈要旨第一〉銃砲等所持禁止令施行規則第六條が銃砲等を發見又は拾得した者は速かに最寄警察官署に届出でなければならぬと規定し其の届出期間に付き何日と確定期限を附せなかつた所以は發見又は拾得の場所と最寄警察官署との距離、發見拾得の時刻、其他發見拾得者の當時に於ける特殊事情等に因り即時届出を爲させることが無理と認めらるる場合のあることを考慮し一律に期間を限定せず具體の場合に於ける特殊事情をも参酌して社會通念上「遲滞なし」と認められる期間内に届出を爲さしむることとしたものであると解釋すべきである。

〈要旨第二〉従つて社會通念上遲滞なしと認めらるる期間内に於ける發見拾得者の所持は銃砲等所持禁止令第一條前段第二條に觸るるものではない。然しながら右期間中の所持が違法とならないのは届出を爲す爲にする保管、所持の範囲に限定せらるるのであつて此の限度を越えて他の不法目的に之を使用すること迄も認容するの法意ではない。

〈要旨第三〉右届出の期間中と雖苟も届出の爲にする保管所持の限度を越えて之を不法目的の下に使用する以上其の使用の瞬間に於て所持そのものが違法性を帯びるに至り同令第一條前段第二條に該當するものと云はざるを得ない。

翻つて記録に徴するに原判示日本刀一振は所論の様に被告人が昭和二十二年一月十五日自宅に於て發見した物である所被告人は右發見後原判示日時たる同年同月十八日に至る迄右發見の旨を最寄警察官署に届出でなかつたことが明白である。尚右發見の日時から右原判示日時に至る間に於て被告人の身邊には所論の様な特殊事情が存在したばかりでなく最寄警察官署も所論の様に比較的遠隔の地に在つたことも亦記録に依つて之を推断することができる。而して斯かる場合に於て被告人が右の届出を爲さなかつたこと自體は被告人に遲滞の責があると爲すのは社會一般の通念に照して必ずしも妥當な見解であるとは謂えない。即ちこの場合には被告人が右期間内届出の爲に單に之を保管したと云ふのであればその所持そのものは不法性を有しないと謂はなければならない。併し原判決與示の證據たる被告人の原審公庭に於ける供述の内容を原審第一回公判調書の記載に照して仔細に檢すると被告人は原判示日時日本刀を以つて被告人の内縁の妻Aを脅迫したことが明白である。而して斯かる態様に於て日本刀を所持する行爲は既に十分な違法性を帯びるものと謂はなければならない。原判決に於て被告人が判示日本刀一振を發見したる日より三日間に亘る該日本刀の所持に不法性を認めないで原判示日時に於ける原判示日本刀所持の行爲に不法性を認め之を判示法條に問擬したのは上述せる所と同様の見解に基いたものと解するを相當とする。即ち原判決は所論施行規則の法條を顧慮した上、更に上述の様な省慮に出でて、被告人に判示法條に該當する犯罪があることを認定したものであつて其の間所論の様な法令を不當に適用した違法は存しない。

論旨は理由がない。

右の次第であるから刑事訴訟法第四百四十六條に依つて主文の様に判決する。

(裁判長判事 佐伯顯二 判事 久禮田益喜 判事 八木田政雄)